

令和5年10月1日

ソラヨイの満月に想う

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

9月29日に浮辺地区のソラヨイを見に行きました。参加した本校児童4名と中学生1名がソラヨイの歌を大きな声で歌い、リズムカルなかけ声に合わせて、全身で踊り跳ねました。とても堂々とした立派な姿を披露してくれました。

踊りが始まると満月が上り始め、雲間から顔を出しました。十五夜の舞台が全て整い、多くの見物者が一斉にカメラのシャッターを切っていました。

五穀豊穡、収穫に感謝する十五夜です。残念なことに踊り手の確保が難しくなり、本年度で浮辺地区公民館が主催するソラヨイは最後となるそうです。そこで、今年は相撲と綱引きが久しぶりに復活し、参加者の思い出の1ページとなりました。

いつの日か踊り手の子どもたちが、ソラヨイの歌や踊りを次世代へ継承し、また復活する日を楽しみに待ちたいと思います。これまでの準備、御指導して下さった地域の方々に感謝申し上げます。

美しい満月を見ながら、少しもの悲しい気持ちにもなりました。

令和5年10月3日

子育てメッセージ

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

先月の教育講演会で子育てについての講話をさせていただきました。人間理解や道徳性の発達、躰といった内容について、哲学や心理学、脳科学的見解等を紹介しました。また、私自身の子育ての後悔や想いを語らせていただきました。

振り返ってみますと幼少年期の子育ての時期は悲しいぐらいに短い期間です。子育てを楽しむ心の余裕を持ちたいものです。悩みは一人で抱え込まず、周囲の手も借りてほしいと思います。個に応じた日々の関わりが必ずその子に伝わり、実を結ぶ日がきっと来ると信じています。心理的安全性を確保するためにも、お子様の心身をしっかりと抱きしめるアタッチメント行動を大切にしてほしいと思います。

親となることができた出産時の感動や子の名付けにあれこれと思い悩んだ日々を忘れることなく、今後も親子共々、成長し続けてほしいと思います。一生涯、親は親であり、子は子です。親思う心に勝る親心です。私も今後も親の務めを果たしていきたいと思いません。

令和5年10月5日

実り多き秋を予感

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

全校朝会で「〇〇の秋」と書いた一枚の紙を子どもたちに提示し、そこに入る言葉を考えてもらいました。子どもたちは、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋等、様々な秋を発表してくれました。学習にも適した時期なので、「学問の秋でもあります。実りの秋になるといいですね。伸びる子の決意もかたし天高し」と、付け加えておきました。

いつものように授業参観をしていると、常日頃から授業改善に努力している先生方が、問題提示、発問構成、板書の構造化、タブレット等のICT機器の活用、振り返り等、更に工夫を凝らした授業を展開していました。また、教児一体となって取り組む姿が見られました。思わず各教室の前で足を止め、授業展開に見入ってしまいました。

受動的、指示待ちの姿勢では、多くの収穫は期待できません。主体的、能動的な取り組みの中にこそ、教育効果が現れるのだと思います。教児共に学ぶ楽しさを追求する姿に、実り多き秋を予感しました。

令和5年10月6日

いよいよ始まります

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

特別国民体育大会が始まります。51年前の太陽国体に参加した一人としては、とても感慨深いものを感じます。

当時、幼稚園生だった私は、開会式のマスゲームに参加させてもらいました。記憶が定かではありませんが、水色の座布団のようなマットを使って、お遊戯をしたことだけは覚えています。今、振り返ってみるととても幸運なことで、貴重な体験となりました。

明日から大会が始まり、特別全国障害者スポーツ大会へとつながる今月は、鹿児島県はスポーツ一色に染まります。これまで多くの選手や大会関係者の方々が、血の滲むような鍛錬や準備を重ねてこられたことだと思います。その努力に敬意を表するとともに感謝の言葉を贈りたいと思います。また、それぞれの所期の目標や夢が達成されることを心からお祈りいたします。

コロナ禍を乗り越えての大会です。県民こぞって大会を盛り上げ、本県に来られた方々に鹿児島のおもてなしの心を伝えていきたいものです。

令和5年10月11日

清々しい朝の風景

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

朝の登校指導を交差点前で行っていると、いろんな楽しみに出会えます。子どもたちのさわやかな笑顔と元気な挨拶，停車してくださったドライバーへの感謝の言葉と会釈。そんな光景にいつも癒されています。また，減速され，頭を下げてあいさつをしてくださる保護者や地域の方々，トラックドライバーがおられます。散歩ついでにゴミ出しに歩いていると，近所の方が「おはようございます。ゴミ出し，感心ですね。」と声をかけてくださいます。毎朝，本当に嬉しく，清々しい気持ちになり，私にとっては楽しい日課です。また，生きる喜びにもつながっています。

他者から見たら，大変そうだなと思われるようなことも，当の本人にとっては，案外楽しみだったり，生きがいだったりします。仕事や勉強なども心がけ一つで，楽しみにも苦しみにもなるのだと思います。まずは前向きな最初の一步が大切だと思います。

日々の楽しい登校指導，今後も続けていきたいと思っています。

令和5年10月16日

幸福について考える

南九州市立霜出小学校
校長 石川 雅実

世界各地での紛争や戦争，経済活動の停滞，食料や必需品の値上げ等，閉塞感の漂う御時世です。それでも，誰もが将来に夢と希望を抱き，幸福な人生を歩いていけたらいいなと考えるこの頃です。

秋の夜長にアラン，ラッセル，ヒルティの三大幸福論を読み返してみました。それぞれの主張は大変示唆に富み，参考になります。

普段の生活の中にも幸福は至るところに散らばっているのかもしれませんが。幸福とは各自がそれぞれに気づき，考え，実感するものです。幸福を感じる心を手に入れたいものです。

幸福を題材にした曲も多数あります。その中で昭和43年に水前寺清子さんが歌い，大ヒットした「三百六十五歩のマーチ」という曲の一部を紹介します。御存知の方も多いかもかもしれません。昭和のよき香りがします。

「しあわせは歩いてこない，だから歩いていくんだね。一日一步，三日で三歩，三歩進んで二歩さがる。」幸福論はこの歌詞に凝縮されているように思われます。